

「第2回懇親会」11月11日に開催

夢を語る楽しい時間を

ふるさとネット結成から1周年



1月に行われた第1回懇親会



現状の問題を語り合った懇談会

9月26日、飯田橋のセントラルプラザで在京三宅島島民懇談会が行われ、島民等9人が出席。久しぶりの再会を喜び合い、島のことや現在の暮らしについて話

し合った。その中では、立ち入り禁止地区やドクターストップのため帰れない人たちに、きめ細かい対策を取ってほしいという意見が出された。それに対しふるさとネットの佐藤会長は、「避難解除イコ

ル被災地ではないという見方をされてしまう。未帰島の人たちが苦しい生活をしていることを私たちがもつと伝えなければならぬ」と話した。また、このような島民懇談会を続けてほしいという声も上がり、参加者が元気になるまで定期的に行うことを決めた。

11月11日、結成から1周年を迎える三宅島ふるさと再生ネットワークが主催する「第2回三宅島在京者懇親会」が巣鴨で開催される。第1回目は、今年1月に行われ、参加した在京者の方やボランティアが情報交換をするともに、楽しい懇親の時間を過ごした。

「第2回三宅島在京者懇親会」が、11日の10時30分から13時まで、在京者やボランティアなど計50人の出席予定で、巣鴨の「桜花苑(おうかえん)」で開かれる。

当日は関係者の挨拶やふるさとネットの活動状況の報告のほか、在京者の方やふるさとネットのメンバーな

どによる歌や踊りなどの楽しい出し物が予定されている。

在京者の懇親会は、今年1月15日に巣鴨の地蔵そば「大橋屋」で行われた「在京三宅島会・ふるさと再生ネットワーク合同新年会」以来10カ月ぶり、今後も、年に1回程度の割合で開催される予定である。

アンケートにご協力を
調査結果1月に公表

9月から当ネットワークが取り組んでいるアンケートは、皆さまのご協力で50通のご回答を頂いている。未提出の方は11月中旬までまだ時間があるので、引き続きご協力をお願いしたい。集計と分析は大妻女子

大学の千川剛史教授を中心に役員が行い、1月号で発表する予定をしている。自由記入欄には、半数の回答者が切実深刻な避難生活の実態と要望を訴えている。

アンケートの結果をまとめることにより、国と自治体の自然災害の制度上の問題も明らかにするはずである。

(佐藤)

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

○第2回三宅島在京者懇親会の参加費は、非帰島島民の方は原則無料（ご寄付いただく場合は千円まで）、協力者は3千円。皆様のご参加をお待ちしています。お問い合わせは事務局まで。

○アンケート、署名のたくさんのご協力をありがとうございました。

○ご寄付のお願い！
非帰島島民（公営住宅在住者）に歳末助け合いのご協力をお願いします。

郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク

事務局：あすなる保育園内
電話・FAX 03(3963)5697
担当 大坊・伊藤

会長時評

三宅発 25 時レポート

観光の再生に力を

三宅島は、あと3ヵ月で全島避難指示解除から満2年を迎えるが、時計の針はまだ正常に戻っていない。年末も近づき季節風の吹く三宅発「25時」の現状をレポートする。

空路再開署名に9万5千人

復旧の柱になっている空路再開に向けた署名活動は、広く支持を得て「三宅島空・海路を考える会」の集計では9万5千、島民の署名も70%を集め目標の1万人を大きく上回った。

この署名活動には、ネットも全面的に協力し在京者と協力者等と呼びかけ署名数は1千129人分、110名の方々が取り組んだ。伊豆諸島でも支援があった。八丈島のローカル紙「南海タイムス」が八丈町商工会と共に町民に署名を呼びかけてくれた。感謝します。これを機に空路再開の



9月11日、練馬区で行われた三宅島復興コンサートで講演をする佐藤会長

ため全島民一丸となり見える行動を連続して興し世論に訴えよう。

「ふるさとの湯」一目も早く

温泉の再開も重点課題だ。当初、村は現行の施設は破損がひどく他に発掘をと述べていたが、予算等の関係で現行の阿古の「ふるさとの湯」の再開に向けて工事中。

再開は来春を予定しているが一日も早い再開を望む声は多い。特に高齢者が増えている島にとっては、健康管理やストレス解消のために温泉はなにより施設のいい。この温泉もただ漫然と利用するのではなく健康管理、娯楽、観光客用の各

種イベントの場として利用することも島民参加で考えたい。

具体策づくり早急に

観光施策は、どうなっているか。気がかりなので観光協会に問い合わせしてみた。村は「三宅村観光復興プラン」を策定し、11月7日に都、村、観光協会が会議を行う予定。島では復旧作業が進み、村の風景も日々変わっている。火山を目玉にするにしても、急がなくては貴重な観光資源は荒らされてしまう。雄山の規制緩和等早急に具体化を望みたい。

3ヵ所に携帯のアンテナ

今年度の村の事業計画に携帯電話の受信の地域拡大のためにアンテナ設置がある。

村の復興政策室の説明では今年度は、伊ヶ谷体育館跡、伊豆老人福祉館、神着湯の浜グラウンドの3ヵ所でアンテナ設置工事に入り、今年中には設置が完了する予定だ。

(会長 佐藤就之)

ネット情報コーナー

アカコッコ通信「短縮版」

インターネット上の9月10月の三宅島に関する情報です。

島の神社にみこし寄贈

三宅島の復興のシンボルにしておうと立川市の男性が、祭りで使うみこしを三宅島の神社に贈りました。

☆10月18日(水)

NHKニュース

(<http://www.nhk.or.jp/nhknet/spot/miyake/index.html>)

火山ガス放出量

2005年12月からの三宅島測候所による島内での自動車を使った二酸化硫黄の観測結果です。

☆気象庁ホームページ

(http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/320_Miyakejima/320_So2emission.htm)

「龍丸」慰霊祭2月に

第二次大戦中に撃沈された海軍徴用船「龍丸」

の沈没地点を望む三宅島で、来年2月8日に慰霊祭を計画。

☆10月14日(土)

信濃毎日新聞

(<http://www.shinmai.co.jp/news/20061014/KT061004FTI090013000022.htm>)

アシタバ7年ぶり出荷

三宅島のアシタバが7年ぶりに島の外へ出荷され、八王子市で販売が始まりました。

☆10月7日(土)

NHKニュース

自転車レース 来年復活へ

三宅島を一周する道路でかつて毎年行われていた自転車レースの大会が、来年7年ぶりに復活することになりました。

☆9月4日(月)

NHKニュース



ふるさとネット

決算報告(案)

☆収入の部

(2005年4月1日～

2006年6月30日)

寄付金	1,278,000円
活動収入	0円
雑収入	8円
収入合計	1,278,008円

☆支出の部

(2005年4月1日～

2006年6月30日)

運営費	32,680円
情報費	171,830円
通信費	219,153円
会議費	24,340円
事務備品費	62,804円
印刷費	0円
活動費	236,306円
諸雑費	4,925円
予備費	0円
当期支出合計	752,038円
次期繰越金	525,970円
支出合計	1,278,008円

※近日中に監事会の監査を予定しています。

協力者は71人に
「三宅島ふるさと再生ネットワーク」は、2005年4月より準備を始め、現在協力者数は

訪問活動では、約15名の訪問員が多摩地区、東京北、東京西の3つの地域に分かれ、これまでに、東京都内約70世帯へ260回ほど訪問した。訪問員会議で各家庭状

活動開始から1年が経った「三宅島ふるさと再生ネットワーク」。71名が協力して行っている訪問活動や広報紙の発行などを通じての情報提供、その状況を事務局がまとめた。

70世帯に260回

活動資金は寄付で
決算報告については表の通り。現在90名程の方からご寄付をいただき、

そのご寄付で会を運営している。主に新聞発行の際の送料等の通信費や、訪問活動の交通費等の運営費、また歳末助け合いとして、お米券や図書券の配布等の活動費となっている。

71名となった。定期的に協力者会議や世話人会議を開き、「三宅島新報」や「ふるさとだより」の発行、新聞記事、HP等での情報提供や電話帳、名簿作り、訪問活動に力を入れてきた。これらの活動は今後も引き続き行っていく。

ふるさとネット1年間の総括

実りある活動の継続を

況を報告する。所録の整理等について話し合っている。訪問活動では、一島のひとと会う機会が少ない、「近所付き合いがなくなり、高濃度地区のために帰れない。早く帰りたい」、「病

非帰島島民の居住地別世帯数(8月現在)

東京北部 計 48	東久留米市 2
北区 16	昭島市 1
練馬区 13	小金井市 1
板橋区 3	羽村市 1
杉並区 4	府中市 9
豊島区 2	国立市 4
文京区 1	立川市 4
中野区 1	稲城市 2
江東区 8	西東京市 3
東京西部 計 45	小平市 2
港区 13	日野市 4
大田区 9	青梅市 1
江戸川区 6	福生市 1
世田谷区 4	伊豆諸島 計 4
目黒区 1	大島 1
新宿区 1	新島 1
中央区 1	八丈島 2
葛飾区 3	都外 計 56
品川区 2	青森県 1
足立区 1	福島県 1
千代田区 2	群馬県 4
台東区 2	茨城県 3
多摩地区 計 68	千葉県 9
八王子市 16	埼玉県 16
武蔵村山市 6	神奈川県 19
町田市 4	山梨県 1
あきる野市 3	静岡県 2
調布市 2	総計 221
東村山市 2	転居先不明 146

数十世帯が避難

噴火の周期が20年に

り、三宅山が形成されるところに、火の山峠の方

連載 三宅島噴火の昭和史②

昭和37年 三七山が形成

昭和15年の噴火から22年後の昭和37年、次の噴火が起った。それまで三宅島の噴火は60年周期とい

から20年周期へと変わった。噴火が起きたのは8月24日。場所は赤発峠左方面だった。それによ

在京者のお宅訪問

不安や希望 様々な思いが

ふるさとネットによる在京の方の訪問活動に同行し、10月5日に訪ねた山本さんと小池さんの状況を報告する。今回も帰れない方の苦しい気持ちや不安が伝わってきた。

民宿再開への思いを語る山本さんご夫婦



今回訪問した1軒目は、以前にも取材をさせていただいた練馬区の都営住宅に住む山本喜美代さん(65)宅。民宿を経営していたが、その家が高濃度地区にあるため帰ることができず、現在はご主人の満治さん(70)だけが島で生活している。帰島したときに手入れをしてきたが、人の住まない家にはネズミが住みつき、戸袋に入れておいた布団まで食い散らかしてしまつたという。すでに営業を再開している民宿の話聞くたびに、喜

美代さんは「うらやましい」と思っていたそう。

そんな家の手入れを、この夏にボランティアの手を借りて行つた。台風の影響で十分なことはできなかったが、手助けをしてくれた人から元氣をもらった。そして、「二重生活は苦しいが、いつか営業を再開できるように、頑張ろう」という気持ちになったそうだ。

あきらめた帰島

訪問した2軒目は、西東京市の都営住宅に住む小池幸七さん(85)、和子さん(79)のお宅。

小池さん夫妻が帰島しないのは、体の不自由な息子さんが入所している施設に通う必要があるからだ。全島避難指示が出る直前、役場からの指示

【お便り】(要約)

先日は訪問ありがとうございました。皆で感激しました。帰れないけど忘れない三宅島。里帰りの話が出るたび船便、旅のつらさで話が中断しています。一部は三宅島宛に届けて下さい。ネットワークの一員としてそれぞれ頑張っていますのでアンケート署名同封します。(H市 Mさん)

【訃報】

浅沼修五さん(元村議会副議長、村立三宅小学校長)(06年8月21日ご逝去)慎んでご冥福をお祈りいたします。

【ご寄付者名】

〔島民〕佐藤就之様②、光安千久子様③、T様〔島外〕遠藤文代様、井上教子様③、T様、中村徹様②、Y様、吉田様、吉田志織様、森田匠様②〔非帰島島民〕K様②(8月8日から10月5日数字は寄付の回数)

復興目指し島で調査を

NPO法人が内閣府のモデル事業で

内閣府の所管する

ている。

2006年度全国都市再生モデル調査に、NPO法人海洋研修センター(企画・実施責任者は事務局長の藤村望洋氏)の三宅島復興に関するプランが選ばれた。そして国が調査に資金を投じ、現在島は島の観光協会、漁協、農協などがこの企画に協力し、村を挙げて復興を目指すための調査を行っている。このプランは、噴火経験の語り手を見つけてることなどにより、島を企業や自治体等の危機管理研修の場にしようというもの。また、噴火の跡も含めた自然を、中学・高校生の体験学習の場や観光資源にしたり、地魚などを提供したりすること、来島者を増やすこと

で、息子さんは突然ヘリコプターで避難することになった。小池さん夫婦は、3日分くらいの荷物を持って、船で後を追ったが、その直後に全島避難指示が出た。その後3

編集後記

私たちDTPAも結成から早、1年半がたちました。当初に比べ、編集体制が徐々に確立してきたとともに、ふるさとネット様の訪問活動などにも、参加させていただいています。そのような中で、多くの島民の方や協力者の方と知り合うことができた。今後も三宅島の復興に向け積極的に参加します。(DTPA一同)



聞き取り調査の様子